

目次

| | | 目次 | 1 | | |
|----------------|------------|------------|--------------------|-----------------|----|
| 理工学部 | 機械工学科 | 三林 雅彦 | 材料強度学研究室 | 4 | |
| | | 十朱 寧 | 環境エネルギー変換システム研究室 | 5 | |
| | | 感本 広文 | 機械力学研究室 | 6 | |
| | | 後藤 昭弘 | 先端加工研究室 | 7 | |
| | | 野崎 孝志 | ヴィークル工学研究室 | 8 | |
| | | 吉見 直人 | 材料表面工学研究室 | 9 | |
| | | 飛田 和輝 | 知能メカトロニクス研究室 | 10 | |
| | | 牧野 育代 | 流体科学研究室 | 11 | |
| | | 黒瀬 隆 | 構造力学研究室 | 12 | |
| | | 佐藤 彰 | エア・モビリティ研究室 | 13 | |
| | | 野内 忠則 | 次世代エンジン研究室 | 14 | |
| | | 鹿内 佳人 | ロボット工学研究室 | 15 | |
| | | 鈴木 弘人 | 無人機航空システム工学研究室 | 16 | |
| | | 電気電子工学科 | 美馬 一博 | 生活支援スマートシステム研究室 | 18 |
| | | | 小澤 哲夫 | 化合物半導体研究室 | 19 |
| | 土肥 稔 | | 蓄電装置研究室 | 20 | |
| | 石田 隆弘 | | 高電圧工学研究室 | 21 | |
| | 村上 裕二 | | センサ工学研究室 | 22 | |
| | 服部 知美 | | システムコントロール研究室 | 23 | |
| | 本井 幸介 | | 生体情報計測研究室 | 24 | |
| | 本良 瑞樹 | | ワイヤレス情報通信研究室 | 25 | |
| | 中田 篤史 | | 電力変換装置研究室 | 26 | |
| | 武岡 成人 | | 音響研究室 | 27 | |
| | 物質生命科学科 | 青山 真大 | 電動機器システム研究室 | 28 | |
| | | Mars Kamel | イメージング集積回路・システム研究室 | 29 | |
| | | 齋藤 明広 | 応用微生物学研究室 | 31 | |
| | | 桐原 正之 | 有機化学・医薬品化学研究室 | 32 | |
| | | 笠谷 祐史 | X線構造物性研究室 | 33 | |
| | | 山崎 誠志 | 界面物理化学研究室 | 34 | |
| | | 宮地 竜郎 | 食品安全学研究室 | 35 | |
| | | 南齋 勉 | 非平衡界面化学研究室 | 36 | |
| | | 吉川 尚子 | 食品機能化学研究室 | 37 | |
| | | 小土橋 陽平 | 機能性高分子研究室 | 38 | |
| | | 高部 稚子 | ストレス反応制御研究室 | 39 | |
| | | 鎌田 昂 | 天然物化学研究室 | 40 | |
| | | 佃 諭志 | ナノ材料研究室 | 41 | |
| | | 脇川 祐介 | 分子物理化学研究室 | 42 | |
| | | 建築学科 | 崔 琥 | 防災構造工学研究室 | 44 |
| | 脇坂 圭一 | | 建築計画・デザイン研究室 | 45 | |
| | 渡辺 英義 | | 耐震構造研究室 | 46 | |
| | 長尾 亜子 | | 建築意匠研究室 | 47 | |
| | 石川 春乃 | | 建築環境(温熱)研究室 | 48 | |
| | 田井 幹夫 | | 設計・意匠(デザイン)研究室 | 49 | |
| | 鍋島 佑基 | | 建築環境(設備)研究室 | 50 | |
| | 林 英昭 | | 建築史研究室 | 51 | |
| E RIDENGAOQIER | 建築材料・生産研究室 | | 52 | | |

| | | | | | |
|-------------------|---------------------|---------------------|--------------------|--------------|----|
| 理工学部 | 土木工学科 | 中澤 博志 | 地盤防災工学研究室 | 54 | |
| | | 松本 健作 | 水理研究室 | 55 | |
| | | 西田 孝弘 | 社会インフラ材料学研究室 | 56 | |
| | | 富永 知徳 | 構造デザイン研究室 | 57 | |
| | | Mahapatra Kedarnath | | | |
| | | | 地球環境・リモートセンシング研究室 | 58 | |
| | | 松本 美紀 | 建設・防災マネジメント研究室 | 59 | |
| | | 居波 智也 | 海岸工学・再生可能エネルギー研究室 | 60 | |
| | | 鈴木 一史 | モビリティデザイン研究室 | 61 | |
| | | 芦澤 恵太 | 応用・計算調和解析研究室 | 63 | |
| 情報学部 | コンピュータシステム学科 | 國持 良行 | 計算機科学研究室 | 64 | |
| | | 足立 智子 | 応用数理・暗号理論研究室 | 65 | |
| | | 渡邊 志 | 感性情報処理研究室 | 66 | |
| | | 富樫 敦 | データサイエンス・人工知能研究室 | 67 | |
| | | 大石 和臣 | 情報・物理セキュリティ研究室 | 68 | |
| | | 高野 敏明 | 適応システム研究室 | 69 | |
| | | 山岸 祐己 | サービス情報学研究室 | 70 | |
| | | 四宮 友貴 | 画像認識アルゴリズム研究室 | 71 | |
| | | 河野 郁也 | 並列アクセラレーション研究室 | 72 | |
| | | 范 自然 | 応用デザイン研究室 | 73 | |
| | | 情報デザイン学科 | 田村 和広 | ゲーム・強化学習研究室 | 74 |
| | | | 小栗 勝也 | マスコミ研究室 | 76 |
| | | | 富田 寿人 | スポーツ科学研究室 | 77 |
| | | | 大相 弘順 | 遺伝情報／人工生命研究室 | 78 |
| | | | 友次 克子 | 言語学研究室 | 79 |
| | 林 章浩 | | マネジメント・メソッド研究室 | 80 | |
| | 谷口 ジョイ | | 社会言語学研究室 | 81 | |
| | 本多 明生 | | 心理学研究室 | 82 | |
| | 兼子 一 | | 社会学・社会調査研究室 | 83 | |
| | 松田 崇 | | コミュニケーションデザイン研究室 | 84 | |
| | 伊藤 明倫 | | 先端アート研究室 | 85 | |
| | 渡邊 言也 | | 感情神経科学研究室 | 86 | |
| | 白田 泰如 | | 会話コミュニケーション研究室 | 87 | |
| | 津田 裕之 | | 環境認知科学研究室 | 88 | |
| | 教育開発センター | | Adam Brian Jenkins | | 90 |
| | 大学院 理工学研究科 システム工学専攻 | 高橋 桂子 | 地球環境インフォマティクス研究室 | 92 | |
| | | 峯田 克彦 | 環境ゲノミクス研究室 | 93 | |
| | | 喜多 隆介 | 超伝導工学研究室 | 94 | |
| | | 産学交流 | | 96 | |
| | | 産学コラボネット | | 97 | |
| 研究会 | | | 98 | | |
| ふくろい産業イノベーションセンター | | | 100 | | |
| 藤枝イノベーション・commons | | | 101 | | |
| 取材対応窓口 | | | 102 | | |
| ホームページ一覧 | | | 103 | | |
| 産学官連携のご案内 | | | | | |



理工学部
建築学科



教授
崔 琥

CHOI Ho

- 学歴 韓国成均館大学 工学部 建築工学科 卒業(1994)
韓国成均館大学大学院 建築構造専攻 修士課程 修了(1999)
東京大学大学院 工学系研究科 建築学専攻 博士課程 修了(2006)
- 学位 博士(工学)(東京大学)
- 略歴 韓国科学財団 Intern研究員(1999)
日本学術振興会(JSPS) 外国人特別研究員(2006)
東京大学 生産技術研究所 助教(2008)
静岡理工科大学 理工学部 准教授(2018)
静岡理工科大学 理工学部 教授(2022~)
- 学会 日本建築学会／日本コンクリート工学会／日本地震工学会
- 専門 建築構造実験／建築物の地震応答解析／地震被害調査／微動計測
- 研究 鉄筋コンクリート造建築物の耐震性能評価手法に関する研究／津波避難ビルの構造設計に関する研究／組積造建築物の耐震性能評価に関する研究／地震被害を受けた建物の応答評価手法の開発に関する研究
- URL <https://researchmap.jp/choiho>

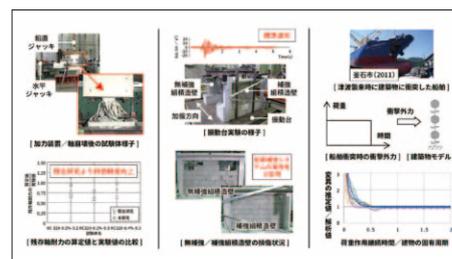


研究概要

建築構造物の耐震および耐津波性能評価

建築構造物の部材から構造物全体を対象に、実験的および解析的手法により、地震や津波による構造物の損傷メカニズムを検討し、建築構造物の耐震および耐津波性能向上に資する研究成果を発信している。

- 部材:せん断破壊した鉄筋コンクリート造柱の残存軸耐力評価に関する研究など(画像左)
- 架構:RC架構に内蔵された組積造壁の面外挙動評価など(画像中)
- 構造物:津波漂流物衝突時の衝撃外力が作用する建築物の応答評価など(画像右)



連携可能内容

静岡県は、日本で最も地震や津波に対する防災意識が高いと言われているが、近い将来起こりうる東海・東南海・南海地震に備え、自治体・建築事務所協会・構造設計事務所などと連携し、公共建築物の耐震性能の再確認や津波避難ビルの設計・施工・選定などの一連の展開が不可欠であると強く思っている。



教授
脇坂 圭一

WAKISAKA Keiichi

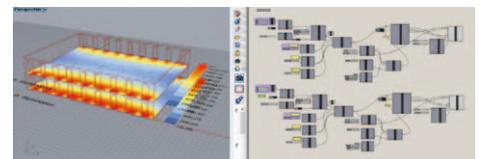
- 学歴 東北大学 工学部 資源工学科 卒業(1995)
東北大学 工学部 建築学科 卒業(1997)
東北大学大学院 都市・建築学専攻 博士課程前期 修了(2005)
東北大学大学院 都市・建築学専攻 博士課程後期 修了(2008)
- 学位 博士(工学)(東北大学)
- 略歴 建築設計事務所 勤務(1997~2005)
オフィス建築大学留学(デンマーク政府奨学金)(2005~2006)
JDSアーキテクト(コペンハーゲン)所属(2006)
東北工業大学 ライフデザイン学部 兼任講師(2008~2011)
脇坂圭一アーキテクト設立(ヒュッゲ デザイン ラボに改組)(2008~)
名古屋大学 施設計画推進室(現 施設・環境計画推進室) 准教授(2011~2016)
静岡理工科大学 建築学科設置準備室 教授(2016~2017)
静岡理工科大学 理工学部 教授(2017~)
- 学会 日本建築学会／北欧建築・デザイン協会／JIA日本建築家協会
- 専門 建築計画(空間認知)／建築意匠(作品論、作家論、北欧近現代建築)／都市計画(キャンパス計画、施設マネジメント、コミッションング、防災建築街区、中心市街地活性化)
- 研究 建築空間における空間認知に関する研究／施設マネジメント手法としてのコミッションングに関する研究／北欧の建築家に関する作品論および作家論／大学キャンパスにおける交流空間に関する研究／地方都市中心市街地における防災建築街区の更新手法に関する研究
- URL <https://researchmap.jp/648121>



研究概要

都市・建築におけるアクティビティ・設計プロセス・空間を通じた計画論的研究

建築分野では、表層のデザインに目が行きがちだが、建物としてつくられる前の条件設定(プログラム、面積算定)が適切か(過大/過小になりがち)、竣工後の使われ方は想定通りか(意図通りにならないことが多い)、、、これら建物の建設前後における検証(POE評価)を通して、新たな方法論の有効性を確認し、次なるプロジェクトへ実装する、という実践(計画・デザイン)⇔検証(研究)のサイクルを廻していく。住宅から施設、都市の街区スケールまで扱う用途も規模も幅広く対象とする。実際の建物における人々のアクティビティから、現象を見出したり、建築家の言説や設計図書を読み解きながら思想を解明したり、計画論として科学的なプロセスを踏まえながら真理を追究していく。近年は、光・熱・気流シミュレーションを通じた環境デザイン手法の開発に取り組んでいる。



連携可能内容

都市・建築の計画に関わる調査・研究／都市・建築の使われ方に関する調査・研究／都市・建築の温熱・気流・照度のシミュレーションおよび実測に関する調査・研究／その他、都市・建築の建築計画・意匠・環境デザインに関する調査・研究



教授
渡辺 英義

WATANABE Hideyoshi

- 学歴 東京理科大学 工学部第一部 建築学科 卒業(1990)
東京理科大学大学院 工学研究科 建築学専攻 修士課程 修了(1992)
- 学位 博士(工学)(東京理科大学)
- 略歴 大成建設株式会社 入社(1992)
静岡理工科大学 理工学部 教授(2024～)
- 学会 日本建築学会／日本コンクリート工学会／日本鉄筋継手協会
- 専門 建築構造／鉄筋コンクリート構造
- 研究 コンクリート系構造の耐震性能評価に関する研究／新材料や高強度材料を用いたコンクリート系構造部材の実用化研究／プレキャスト工法などの合理化構工法の開発

研究概要

安全・安心な都市の実現／耐震性に優れたコンクリート系構造物をつくる

現代の都市は鉄筋コンクリートに代表される多くのコンクリート系構造物で構成されている。コンクリート系構造は居住性、耐震性、耐火性、耐久性、経済性に優れているため、特に学校建築や高層集合住宅、事務所建築などに多用されている。より安全・安心な都市を実現するためには、今後の発生が懸念される巨大地震に対しても被害が生じないようなレジリエンスに富む強靱な構造物が求められており、コンクリート系構造部材の性能を精度よく耐震設計に反映する手法の高度化が必要となる。また、最近の建築物は超高層化、大スパン化する傾向にあり、コンクリートや鉄筋などの構造材料の高強度化が進められているとともに、昨今の熟練技能者不足に対応するためのプレキャスト工法等の合理化構工法の適用も求められているが、両者に対する精度の高い構造性能評価法の確立も不可欠である。これらの課題に対応するため、コンクリート系構造物を対象として実験的・解析的に研究を進めている。

連携可能内容

上記の技術開発の支援、共同開発や技術指導、構造実験の実施／構造関係技術一般に対する助言や技術指導



教授
長尾 亜子

NAGAO Aki

- 学歴 多摩美術大学 美術学部 建築学科 卒業(1989)
東京科学大学 博士課程 修了(2025)
- 学位 博士(東京科学大学)
- 略歴 妹島和世建築設計事務所(1989)
長尾亜子アトリエ 主宰(1993)
長尾亜子建築設計事務所 主宰(2000～2020)
岩堀未来+長尾亜子/BASIC DESIGN ARCHITECTS共同代表(2024～)
静岡理工科大学 理工学部 准教授(2018～2024)
静岡理工科大学 理工学部 教授(2025～)
- 学会 日本建築学会／東京都建築士会
- 専門 建築意匠／空間デザイン
- 研究 「建築のかたち」は様々な要因によって作り出されます。ウェルビーイングを実現する建築空間/まちの変容と「建築のかたち」/フェーズフリーなコミュニティハブとなる建築/防災とコミュニティデザイン/遠州遺産プロジェクト
- URL <https://researchmap.jp/akonagao>



研究概要

まちと「建築のかたち」(地域リサーチ)
内部空間と外部空間の関係を作り出す「建築のかたち」(建築意匠)
ウェルビーイングを実現する「建築のかたち」(建築意匠)

地域研究－まちの変容と「建築のかたち」－

まちは常に変容しており、「建築のかたち」はどのように変化し、また変化していくのだろうか。日常の中にある魅力ある生活の種を見つけ出し、より豊かなまちに変容させていく仕組みを考察し提案していく。

フェーズフリーなコミュニティハブとなる建築

防災では日常と非日常をつなげていくことが重要である。そのためにはコミュニティハブとなる建築が必要である。地域毎に持っている防災倉庫を対象に研究を行う。

高齢者のウェルビーイングを実現する建築空間

超高齢化社会を迎える中、高齢者のウェルビーイングを実現するための建築空間について、実空間を対象に実測調査などを行う。

連携可能内容

まちのリサーチとアクティビティを生み出す方法を考察し、実践について調査研究していくことが可能/地産材を利用した高齢者のウェルビーイングを実現する建築空間の研究を行うことが可能/防災の視点で地域力向上をサポートすることが可能(フェーズフリーなコミュニティハブとなる建築デザイン)



准教授
石川 春乃
ISHIKAWA Haruno

学歴 早稲田大学 理工学部 建築学科 卒業(1991)
早稲田大学大学院 理工学研究科 建設工学専攻 建築学専門分野 修士課程 修了(2004)

学位 修士(工学)(早稲田大学)

略歴 長野県 入庁(2004)
株式会社エス・ラボラトリーズ設立 代表取締役(2006)
静岡理工科大学 理工学部 准教授(2018～)

学会 日本建築学会／空気調和・衛生工学会／建築設備技術者協会

専門 建築環境工学／建築エネルギー利用と快適環境／ZEB・ZEH

研究 静岡の地域性と建築温熱環境／建築物の環境性能評価／地域周辺環境と建築物の共生

URL <https://researchmap.jp/harunish>



研究概要

カーボンニュートラル時代の静岡型建築環境

学校施設のZEB化推進

静岡県下で学校施設のZEB化に活用する研究を現場で実施。静岡ならではの環境行動によりエネルギー消費を削減し、持続可能な運営を目指す。

都市環境の脱炭素化

静岡市や浜松市を中心に、都市環境の脱炭素化を目指した研究を展開。交通網の最適化、地域マイクログリッド、グリーンインフラの整備など、多角的なアプローチで持続可能な都市計画を推進する手法を模索している。

災害廃棄物管理とCO₂排出量削減

災害廃棄物のCO₂排出量削減に向けたリサイクルやリユースの促進、廃棄物管理システム構築に取り組む。災害多発地域の静岡県において、環境負荷を低減する実践的な研究を行っている。

環境配慮行動促進と社会実装

静岡県の自然環境を活かし、地域や自治体と連携して環境行動を促す仕組みを社会に実装する研究を行っている。環境教育プログラムの開発や住民参加型の環境改善活動を通じ、地域全体の環境意識を高めている。

連携可能内容

- 学校施設等の公共建築物ZEB化支援
- 都市環境の脱炭素化
- 省エネ法・建築物省エネ法の適用



准教授
田井 幹夫

TAI Mikio

- 学歴 横浜国立大学 工学部 建設学科 建築学コース 卒業(1992)
The Berlage Institute Amsterdam 留学(1992)
横浜国立大学大学院 都市イノベーション学府 博士課程 在籍中(2022)
- 学位 学士(工学)(横浜国立大学)
- 略歴 内藤廣建築設計事務所(1994)
アーキテクトカフェ主宰(1999)
アーキテクトカフェ・田井幹夫建築設計事務所 代表(2004)
Tunghai University, Taichung, 台湾 客員准教授(2012)
静岡理工科大学 理工学部 准教授(2018～)
- 学会 日本建築学会／日本建築家協会／東京建築士会
- 専門 設計・意匠／空間論(身体から都市計画まで)
- 研究 素材・構造と空間の関係性／中間領域論(行為と空間相互の連関)

研究概要

中間領域における空間と活動の形式性、関係性の研究～身体から都市空間まで～

多様化する時代性の中、建築そして建築家の果たす役割も多様かつ重要になっていると言える。拡張化から縮小化へ転換した流れの中、ものづくりの絶対数は減り、持続可能な社会の実現は必須となっている。そのためには新築と改築が同価値で扱われる建築のあり方の研究、温暖化する地球環境の中での空間のあり方の研究も重要な位置付けにあると考える。また、活動も多様かつ混在化が進む中、機能や空間の中間領域の分析的研究も重要であると考え。上記を踏まえ、研究テーマを以下として挙げる。

- 住宅における中間領域の研究(行為と空間性両観点より)
- 公共建築における中間領域の研究(行為と空間性両観点より)
- 身体と空間の関係性の研究(素材と構造の関係性より)
- 働く事と住む事が共存し地域のコミュニティを育む建築の研究
- 再生(まちの再生、建築の再生<ハードとソフトの両観点より)について

連携可能内容

住宅メーカー、工務店、ビルダーなど、商品化住宅、地場注文住宅を生産している企業とともに、中間的領域を持つ住宅において、人々の生活や行為における機能の混在、発明を調査研究する。調査研究内容より、次世代の住宅の間取り、空間構成の可能性を見出し、新たな住宅の在り方、商品開発に繋げるものとする。メーカー(エンジニアリングウッド、仕上げ材、各種素材など)と、新たな建築空間の可能性を探る。また、素材や構法の開発を通して、建築のみならず、街づくりや町おこしへの可能性を探る。



准教授
鍋島 佑基

NABESHIMA Yuki

- 学歴 豊橋技術科学大学 建築工学課程 卒業(2008)
北海道大学大学院 工学研究院 空間性能システム専攻 博士後期課程 修了(2013)
- 学位 博士(工学)(北海道大学)
- 略歴 北海道大学 空間性能システム部門 博士研究員(2014)
株式会社テクノフロンティア 主任研究員(2015)
豊橋技術科学大学 建築・都市システム学系 建築環境工学研究室 助教(2016)
静岡理工科大学 理工学部 講師(2019)
静岡理工科大学 理工学部 准教授(2022～)
- 学会 空気調和・衛生工学会／日本冷凍空調学会／計測・自動制御学会／日本建築学会
- 専門 建築設備工学／建築環境工学
- 研究 デシカント換気システムを中心とする省エネ空調システムの研究／ウェルネスを考慮したビル空調制御システムの研究開発／農業の省エネ化を目指したハイブリッドボイラーの研究開発
- URL <https://researchmap.jp/sist-nabeshima>

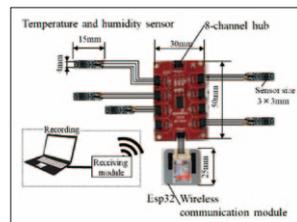


研究概要

計測技術を活用した建築環境分野の発展に寄与する研究

IoT計測機器を活用した材料評価技術

日本では建築物の消費エネルギーのうち、30%が冷暖房に使用されている。デシカントシステムは省エネ空調として導入が促進されている。除湿を担うデシカントローターについては、様々な吸着材料が市場投入されている一方で、これら材料の違いが除湿/再生にどのような影響を及ぼしているか、連続的に可視化した事例は無い。そこで、小型のIoTセンシング技術を活用したローター内部環境の可視化による吸脱着挙動の解明を目指す。



多点式無線温湿度計測機

IoTセンサーを活用した空調自動運転技術の開発

無線温湿度センサー群やCO₂センサー群が測定した結果をもとに快適性や省エネ性を判定し、エアコンをはじめとする空調機器の発停や設定変更、熱中症などの生活リスク回避を可能とする自動運転システムの構築を目指す。また、ビルオートメーションのため、シンプルな機械学習や自動制御AIによる業務用中小ビルに導入容易なEMSの開発を目指す。



建築学科棟を対象とした自動制御実証

連携可能内容

中小ビル、戸建て住宅などの温熱環境計測、分析／居室空間を対象とした快適分布の測定／デシカントシステムの開発・評価／空調最適運転／災害復興支援を目的としたIoT技術構築／農業分野のエネルギー使用最適化



准教授
林 英昭

HAYASHI Hideaki

- 学歴 早稲田大学 理工学部 建築学科 卒業(2001)
早稲田大学大学院 理工学研究科 建築学専攻 後期博士課程 満期退学(2006)
- 学位 博士(工学)(早稲田大学)
- 略歴 早稲田大学 理工学術院 専任助手(2005)
早稲田大学 理工学術院 理工学研究所 客員講師(2008)
ものづくり大学 技能工芸学部 専任講師(2010)
ものづくり大学 技能工芸学部 准教授(2018)
静岡理工科大学 理工学部 准教授(2023～)
- 学会 日本建築学会／建築史学会／都市史学会
- 専門 建築史／伝統木造建築／東洋建築史
- 研究 伝統木造建築の設計技術／ベトナムの伝統木造建築／アジアの少数民族の建築文化
- URL https://researchmap.jp/hayashi_histarch



研究概要

伝統木造建築に見るベトナム越族文化の南北分断の実相

本研究テーマは近世ベトナムにおける越族文化の南北分断について、具体的な建築を通じて解明することを目的とする。ベトナム越族の建築技術は南北の相違が顕著であり、単なる地域性に留まらない分断が確認できる一方で、それらを具体的且つ網羅的に比較分析するための建築資料が決定的に不足している。本計画はその不足を補うため、ベトナム全土で実測調査を行い、南北越族の建築文化の地域的な拡がりや設計技術・建築様式の相互関係を比較分析する。ベトナムの伝統的村落の中心施設「ディン」について、ベトナム全土計12の地域(北部五地域・中部五省・南部二省)から30棟を目標に実測調査を行う。19世紀初頭にベトナム全土を統一した阮朝は、なぜ歴代の北部越族王朝とは異なる、正統的でない建築様式をその王都の様式として選択したのか。阮朝に先行する近世ベトナム越族の南北分断の実相について、建築文化の側面から焦点を当て、近現代ベトナム史に底流する問題の核心に迫る。



連携可能内容

古建築の実測調査・学術的評価／失われつつある建築文化の記録・後世に継承する文化支援活動／伝統木造大工技術・大工道具等の学術的調査／日越文化交流事業に関する建築的側面からの支援



講師
E RIDENGAOQIER

エルドン オチル

- 学歴 中国内モンゴル工業大学土木学院土木工程専攻 卒業(2014)
 三重大学大学院工学研究科建築学専攻 博士前期課程 修了(2016)
 三重大学大学院工学研究科システム工学専攻 博士後期課程 修了(2019)
- 学位 博士(工学)(三重大学)
- 略歴 東京理科大学 工学部 嘱託助教(2020～2025)
 静岡理工科大学 理工学部 講師(2025～)
- 学会 日本建築学会／日本コンクリート工学会／日本土木学会／Asian Concrete Federation
- 専門 建築材料／非破壊検査
- 研究 ポーラスコンクリート／セルロースナノファイバを用いたコンクリート／カーボンニュートラルコンクリート／AIによる品質評価／建築材料の非破壊検査
- URL <https://researchmap.jp/ERIDENGAOQIER> 

研究概要

建築材料の革新と建築構造物の持続可能な維持管理に関する研究を行っている。建築物の耐久性向上、環境負荷の低減、そして AI 技術を活用した建築構造物の品質評価を主なテーマとし、より強く、長持ちし、環境にやさしい建築技術の開発を目指している。以下に代表的研究テーマを示す。

【主な研究テーマ】

- 1) 各種収縮低減材料／各種石灰石骨材を用いたコンクリートの乾燥収縮低減
- 2) コンクリートの乾燥収縮挙動に影響を及ぼす骨材の諸物性評価
- 3) セルロースナノファイバを活用したコンクリートの性能向上
- 4) AI・非破壊検査を用いた建築構造物の品質評価・寿命予測
- 5) カーボンニュートラルコンクリートに関する研究
- 6) ポーラスコンクリートに関する研究

連携可能内容

ポーラスコンクリート(透水性コンクリート)に関する研究
 建築構造物の品質評価
 カーボンニュートラルコンクリートの開発
 建築材料の非破壊検査